

平成 31 年度西宮市協働事業提案審査会 会議録（要約）

日 時：平成 31 年 4 月 24 日（水）13 時 00 分から 16 時 45 分

場 所：西宮市職員会館 3 階 大ホール

出席者：【委 員】直田 春夫（会長）、川東 美千代（副会長）、横田 祥子、河中 昇、坂井 健作

【事務局】市民協働推進課長 谷口 博章、同係長 松野 歳之、同主事 黒木 千聖

〈第 1 部 プレゼンテーション〉公開

○開会

市民協働推進課長より挨拶の後、委員紹介があった。

○事務局

1 提案につき 15～20 分を予定。提案団体のプレゼンテーションで約 5 分、委員からの質疑に約 10～15 分。会長進行で開始。

1 番目の事業「**地域のがっこう（まちのがっこう）**」について

○直田会長

提案団体からの事業概要について説明をお願いします。

→提案団体から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○坂井委員

- ・ 去年は途中で退会した人はいたのか。
- ・ 教材作りは具体的にどのように進めているのか。

◇提案団体

- ・ 入学者 43 名のうち、途中で退会された人はいなかった。また、2 年目の実施に向けて、前年度参加者にメールにて進級の意向を確認しているが、現時点で退会予定の人はいないため、今回も参加していただけるものと考えている。
- ・ 教材は各回の講師が作成することになるが、ワークショップの内容やまち歩きのコースについては、講師と 8 名の運営委員が相談しながら決めるようにしている。

○河中委員

- ・ 事業目的として地域活動の新たな担い手づくりを掲げているが、去年の入学者 43 名の年齢別の内訳を見ると、60 歳代以上の割合が 40%以上となっている。事業目的と入学者の年齢層は合致しているのか。

◇提案団体

- ・ 私たちが担い手の中心と捉えているのは 50～60 歳代。これまで地域活動に参加してこられなかった方々の参加を期待しており、1 年目はこのような方々の参加を一定得ることができたと考えている。担い手の発掘・育成につなげていくのが次のステップであり、2 年目となる今回は、受講者が企画する側に回るような仕掛けづくりをしていきたい。

○横田委員

- ・予算に計上されているギガフォンとインカムの用途について聞かせていただきたい。
- ・通信費として案内郵送用切手 100 枚とあるが、誰に案内を送付するのか。

◇提案団体

- ・昨年の授業で最も関心を集めたのが、地域の歴史や成り立ちについて学ぶまち歩きであった。その際に、後方まで声が届かず聞き取れないとの声があり、講師からも持ち運び可能なマイクを用意してはどうかとの意見もいただいたことを受けて、今回の予算に計上している。
- ・通信費については、新たな入学者の獲得に向けて、冊子や案内等を郵送するための費用である。

○直田会長

- ・4回という回数は少ないように感じる。
- ・受講者が「地域のがっこう」に参加することで、何を獲得できたかという指標のようなものがあれば聞かせていただきたい。

◇提案団体

- ・回数については団体内部でも議論があり、最終的には回数よりも参加者に満足してもらえるように、内容の充実を図ろうということになった。そうすることで今後の発展につながっていくものと考えている。
- ・2月の修了式の際に、1年間で学んだことについてクラスごとに成果報告をしてもらう予定である。授業態度で評価するというよりも、各自が学んだことを共有して発表するというのを今回のポイントにしたい。

○川東副会長

- ・様々な年代の方が集まるというのは、これからの地域にとって大切なことである。偏りのない発信を心掛けていただきたい。
- ・プレゼンテーションはとても分かりやすかった。

○直田会長

- ・目標として掲げている「地域活動の新たな担い手づくり」と「地域力の活性化」はとても良い目標と考える。このうち「地域力」について分かりやすく説明してもらいたい。

◇提案団体

- ・まちづくりにおいて「地域の活性化」という言葉がよく使われるが、私はあえて「地域力の活性化」と言っている。力とは人の集まる力であり、地域活動の担い手の高齢化により、地域を支える人の力が弱くなっている中で、新しい人やエネルギーが入っていくことが地域の力につながっていくものと捉えている。

○直田会長

- ・この事業が、地域のまちづくりを地域住民が担う「地域自治」につながっていくことを期待している。

○坂井委員

- ・他地域や他市の住民でも参加できるのか。

◇提案団体

- ・地域密着のテーマが多いということを理解していただけるのであれば、他地域の方でも参加可能であるが、昨年の入学希望者は鳴尾エリアの方のみであった。なお、昨年は市外からの見学希望者がいらっしやっただりや、大学生に転入生という位置づけで参加していただいた回もあった。

○直田会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

2 番目の事業「住民参加型のマルシェイベントの開催」について

○直田会長

提案団体からの事業概要について説明をお願いします。

→提案団体から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○坂井委員

- ・提案団体は、この活動を利益追求の一環として行うのか。そのあたりの仕組について説明していただきたい。
- ・マルシェイベントの企画立案はどこが主体になって行うのか。

◇提案団体

- ・当団体は、コミュニティ活性化のための資金として、開発に関わった7社から出資を受けており、その出資金と住民からの会費をもとに運営されている。
- ・今回の事業は、団体の事務局員が中心になって企画運営を行うことになるが、これまでの活動により、住民の中から徐々に担い手が生まれつつあるため、そのような方々にも関わっていただきたいと考えている。

○河中委員

- ・将来の担い手づくりに向けた具体的な手法について聞かせていただきたい。
- ・団体単独でも実施できるのではないかな。

◇提案団体

- ・将来的に住民による自治組織を構築していく必要があるが、独自で作るのは難しい側面もある。まずは住民同士がそれぞれの関心に合わせたグループをつくり、ブースの企画や運営を行う中で、この地域はどのような課題を抱えているのか、これから地域に対して何ができるかということを考えるきっかけにしたいと考えている。
- ・このような機会を通じて、他地域の皆さんにこのような取組が行われていることをアピールしていきたい。また、地域の課題認識や新しい担い手獲得の手法について、市とも連携しながらチャレンジしていきたい。

○横田委員

- ・これまでの活動で、将来的に住民のリーダーになりうる方が生まれつつあると推察するが、そのような方と一緒に発表してくれればよかった。提案書類の内容も含めて、住民不在であるような印象を受けた。協働事業としてふさわしいかという点では疑問が残る。

◇提案団体

- ・新たに住み始めた人がほとんどという状況の中で、活動に参加してくれる方を試行錯誤しながら少しずつ増やしているというのが現状である。実際に、既存の自治会が開催しているイベントに当該地域の住民有志がブースを出展したほか、主婦層によるハンドメイド作品の販売や住民有志による定期的な清掃活動などが行われている。

○川東副会長

- ・自治会組織は地域によって様々であるが、新しい地域のまちづくりにおいて、自治会はあったほ

うが望ましい。住民主体で自治会を立ち上げるのが難しい時代の中で、提案団体が様々な形で住民への働きかけを行っていることはとても良いことである。

- ・受け身の住民がまだまだ多いと思われるが、自分たちでやろうという人は少しでも出てきているのか。

◇提案団体

- ・やる気のある人が少しずつ生まれ始めている段階であり、今回このような事業を提案させていただいた。地域住民がイベント全体や地域全体のことを自発的に考えてくれるきっかけにしたいと考えている。

○直田会長

- ・地域のことをこれから段階的に住民に引き渡していくにあたり、提案団体が動きすぎると逆効果になってしまうので、何らかの工夫が必要になる。イベントを2回開催するのであれば、1回目と2回目では内容を少し変えて、住民が自発的に参加できるような仕掛けを考えていただきたい。周辺大学や中間支援NPOにも協力を呼び掛けて、各方面から知恵を借りるというのも一つの方法である。

○直田会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

3番目の事業「夫婦のための出産準備イベント」について

○直田会長

提案団体からの事業概要について説明をお願いします。

→提案団体から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○坂井委員

- ・提案団体が実施した独自調査について詳しく聞かせていただきたい。
- ・夫婦を助ける基準はどのように設定しているのか。
- ・子育てコンシェルジュについて、適切なアドバイスを行うには必要な資格や業務経験などが求められると思うが、どのような人を配置する予定か。

◇提案団体

- ・西宮市内全域で、妊産婦や0～3歳の子供がいる保護者を対象に、インターネット調査と50名強を対象にしたインタビュー調査を実施した。約30ページの報告書を作成し、6月に報告会を開催する予定である。
- ・対象は市内に住んでいるすべての妊産婦夫婦である。病気や悩みを抱えている方に限らず、元気な方も含めて働きかけを行いたい。しんどくなってからSOSを出すのはハードルが高くなるため、今回のイベントを助ける前の予防の機会と位置付けて、その後の行政のサポートにスムーズにつながる機会にしたい。
- ・コンシェルジュは公的な子育て支援サービスであり、市や大学等の職員が相談対応を行っている。今回は市にコンシェルジュの派遣を依頼する予定である。

○河中委員

- ・事業実施後のフォローは提案団体が行っていくのか。
- ・スケジュールについて聞かせていただきたい。

◇提案団体

- ・出産後は、定期的な健診など市のフォローが基本になるが、当団体が集い場の開催を行っているほか、今回の事業では子育てグループとの協働も予定しているので、市内の子育てサポーターと協力してつないでいきたいと考えている。
- ・今回は、助産師等による相談ブース、家事について夫婦で考えるワークショップ、体を動かすヨガ、夫婦で学ぶ料理講習という4つのメインの取組を1日で行う予定にしている。また、今回の事業とは別に妊産婦向けの講座を開催予定なので、そちらにもつなげていきたいと考えている。

○横田委員

- ・とても良い活動をされていると思う。
- ・予算のうち、写真家への報償費6万円や写真撮影舞台装置3万円を助成対象外経費としているが、どうして対象経費として計上していないのか。

◇提案団体

- ・写真撮影は、若い夫婦に参加してもらおううえで肝になると捉えているが、写真撮影が今回のイベントのメインではないため、撮影費用は当団体が自己負担することになっている。市にはそれ以外の部分で協力をお願いしたいと考えている。

○横田委員

- ・市は写真撮影にかかる経費を認めることはできないのか。

◇事務局

- ・絶対に認められないというわけではないが、助成対象経費にするのであれば、金額の妥当性について検討が必要である。

○横田委員

- ・この金額が妥当かどうかは分からないが、必要な経費であると考えます。
- ・子供たちは地域の学校に通うことになるので、地域の団体や人たちとつながれるような仕組みも取り入れていただきたい。

○川東副会長

- ・子供たちは地域の中で育っていくので、地域ともつながればより良い活動になると思う。
- ・女性たちによる活動であるが、男性の視点もうまく取り入れながら実施してもらいたい。

○直田会長

- ・アンケートによると、頼れる人の数は一人当たり平均2名となっている。事業を通じて横のつながりが広がり、気軽に頼り合えるような関係づくりができればと思う。

○直田会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

4番目の事業「**学んで、体験して、つないでいこう『災害への備え』**」について

○直田会長

提案団体からの事業概要について説明をお願いします。

→提案団体から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○坂井委員

- ・地域には子ども会があると思うが、そことの整合性について聞かせていただきたい。

- ・講師は専門家が望ましいと考えるが、どのような方を候補として考えているのか。

◇提案団体

- ・子ども会は当団体の構成団体の一つであり、私が会長を務めている。昨年も子ども会からの提案を受けて当団体全体として実施したという経緯があるので、整合しているものと考えている。
- ・当初は防災士による講演会方式を考えていたが、子供たちに楽しみながらわかりやすく学んでもらいたいということで、スタンプラリーの実施を検討している。その中に防災用品や非常袋の展示、要支援者の方への理解を深める体験、ケガの応急処置を体験してもらうブースを組み込みたい。応急処置については、資格のある方に協力をお願いする。社会福祉協議会や近隣のNPO、消防団にも参加・協力を呼び掛けており、分団長には震災時の体験談を話していただく予定である。十分に検討できていない点も多いが、防災士や消防士にも可能であれば協力を要請したいと考えている。

○河中委員

- ・災害への備えということであれば、参加者が正しい理解を身につけられるように専門の方から教わるべきではないか。

◇提案団体

- ・専門の方に来ていただきたいが、一方で時間的な制約もある。引き続き検討していきたい。

○横田委員

- ・昨年かまどベンチを見にいかせていただいた。地域に設置された新たな設備を活用し、多くの方を集めて真剣に取り組まれたことが伝わってきた。地域の様々な団体と連携して、より発展した取組になることを期待している。

○川東副会長

- ・地域の場所や設備を活用して、地域が主体となって防災啓発を行うのは、市としても大変ありがたい活動ではないか。防災意識は、小さい頃から啓発していかないとなかなか身につかないので、良い取組であると考えます。
- ・対象は小学生のみを想定しているのか。

◇提案団体

- ・地域に住んでいるすべての人を対象にしているが、子供たちは体験を通じて学ぶことがとても上手なので、目線を小中学生に合わせて企画を立てている。

○直田会長

- ・実施予定の防災謎解きゲームは室内で実施するのか。

◇提案団体

- ・場所は選ばないが、室内での実施が望ましいと開発者から聞いている。

○直田会長

- ・災害時はとっさの判断が大事であり、判断できるということが命を守るうえで一番の肝になる。自分で判断して行動できる力を身につけるということを中心に、専門家も交えて内容を検討していただきたい。

○直田会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

5番目の事業「ミカン狩りとスイーツづくりでミカンの知識と地域を知る」について

○直田会長

提案団体からの事業概要について説明をお願いします。

→提案団体から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○坂井委員

- ・自治会加入者が増えないという現状があるとのことだが、宣伝不足だから増えないのか、もしくは自治会自体に若い人たちが魅力を感じないから増えないのか。
- ・みかん農家とはどのような形での契約を考えているのか。

◇提案団体

- ・行事を開催するときは、各戸へのチラシ配布や告知板等へのポスター掲示を行っている。他地域から転入してこられた方の中には、自治会に加入しない人が多いことや、土日は他の地域行事や催しがあることが、参加が増えない原因と考えている。
- ・自治会からみかん農家へは、1家庭あたり1,500円の支払いが必要。今回の事業への参加費は、一人当たり300円が妥当として試算している。

○河中委員

- ・自治会への加入者が増えないという現状があり、自治会内では予算的に厳しいということで、この事業を提案したという理解でいいか。

◇提案団体

- ・若い方向けに魅力あるプログラムを提供したいと考えていた中で、この未来づくりパートナー事業のチラシが目にとまった。これを一つのきっかけにしたいと考えて応募した。

○横田委員

- ・私も自治会の役員をしているが、提案団体は様々な活動に取り組みされており、役員報酬も出されているなど、しっかりとした自治会だと感じた。若い世代が参加してくれないという現状もよくわかる。内容的にも、地域の農園や商店と連携して実施することで、参加者が地域の歴史や成り立ちを知るきっかけとなり、そこからつながりを広めていくのは良いことだと思う。
- ・未来づくりパートナー事業を活用することで、団体の積極性のアピールにつながると思うが、市と協働するという要素がもう少しあってもよかった。

◇提案団体

- ・未来づくりパートナー事業のチラシを見なければ、今回のようなアイデアを思いつかなかったと思うので、良いきっかけになったと考えている。

○川東副会長

- ・みかん農家のことはよく知っている。とても美味しいみかんであり、アイデアとしては面白いと思う。
- ・大きな自治会であるがゆえに、人が集まりにくいという側面があるかもしれない。例えば組ごとにイベントを行えば、近い人同士で集まりやすくなるのではないか。

◇提案団体

- ・将来的には組ごとに集まり、困りごとを話し合ってはどうかという意見も出ていた。

○直田会長

- ・事業名の「ミカンの知識と地域を知る」の「地域を知る」というところをもう少し展開すること

ができれば面白いと思う。

- ・段上町には、ミカンやイチゴなどの果樹園が他にもあるのか。

◇提案団体

- ・元々はイチゴ畑が手広く営まれていたと聞いている。他にも様々な果実が植えられている。

○直田会長

- ・そのような地域の資源や歴史について、先人の苦労などを含めて学んでいく機会にすれば、より意味のある事業になると思う。

◇提案団体

- ・いただいた意見を参考にもう少し内容を練っていききたい。

○直田会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

6番目の事業「地域が取り組む SNS と新たな情報発信、そのセミナーと成果活用事業」について

○直田会長

提案団体からの事業概要について説明をお願いします。

→提案団体から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○坂井委員

- ・教室でスマホやタブレットの使い方を教えるというイメージでよいか。
- ・教材は参加者が持参するのか団体側で準備するのか。
- ・自治会加入率の増加が防災や防犯の強化につながるのかという疑問がある。

◇提案団体

- ・お堅い雰囲気になると困るので、まずはみんなが集まって何でも話せるお茶会のような感じで実施したいと考えている。
- ・教材については、地域にいるスマホ等に詳しい人の意見を参考に、ニーズを満たす教材を作成したいと考えている。
- ・元々は一戸建ての多い地域であったが、最近はワンルームマンションが増えてきている。地域の防犯力は、地域の人たちが顔見知りになることで高まるものであり、そのためには自治会加入等により顔をつなげる取組が重要となる。

○河中委員

- ・ガラケーを持っている人もしくは何も持っていない人が、2回のセミナーでスマホを使いこなせるようになるのか。
- ・SNSはそもそも顔を合わせるものではないため、この取組が自治会加入率の向上につながるのか疑問に感じる。
- ・SNSでは詐欺事件なども発生している。防犯ということであれば、その点もしっかりとおさえたい。

◇提案団体

- ・2回の受講で使いこなせるようになるのは難しいと考えているが、開催内容や追加開催に関する希望についてはどんどん応えていきたい。このような関係づくりを通じて、自治会が良くなっていけばいいと思う。

- ・自治会は地域課題の解決など様々な取組を行っているが、何をしているか分からないという人がまだまだ多い。自治会加入率の向上については、広報面ですでに取り組んでいるところであるが、様々な形で自治会の取組を発信していくことが、自治会加入率向上につながるものと考えている。
- ・SNSに関連してどのようなことが起きているかということをも事例として取り上げたい。

○横田委員

- ・ホームページを立ち上げようというわけではないのか。
- ・自治会で災害に備えて名簿を作成しようとしても、個人情報で教えてもらえないことも多い。ホームページであれば、見る側の判断でアクセスすることができるが、SNSで情報を送信するとなると、送信される側のアドレスを取得する必要があるなど、情報管理の面で難しいように感じる。
- ・例えば、災害で近くの川が危ないという情報が会長のもとに寄せられても、大雨の中で情報を届けることができないという状況も考えられるので、これからはSNSによる情報発信は大切だと思う。

◇提案団体

- ・まずはフェイスブックから始める予定である。ホームページを作っても見てもらえないと意味がないので、電子看板を設置する予定である。
- ・情報管理について、例えばチラシに写真を掲載する場合は事前に合意を得るようにするなど、注意して取り組んでいきたい。
- ・すぐに成果を出すのは難しいかもしれないが、高齢者の中にはインスタグラムを使いこなしている人もいるので、そのような人を増やしていきたい、徐々にみんなの意識を変えていきたいと考えている。

○川東副会長

- ・予算に電子看板配信管理料が計上されている。電子看板はどこに配置されるのか。

◇提案団体

- ・マンションのロビーやクリニックなど、約5箇所に設置できる見込みである。モニターを通じて、自治会情報などを配信したい。

○直田会長

- ・高齢の方がスマホを使うのは主にコミュニケーションのためであり、そこに力を入れないとなかなか使ってもらえない。例えば、子供に関するネットワークを作れば、知らない情報が色々入ってくるということにメリットを感じて、そのネットワークへの参加者が増えるということもある。参加者を自治会員に限定せずに、参加することにメリットを感じてもらえるようなネットワークづくりができれば大変面白い取組になるとともに、自治会への関心を高めることにつながる。

○直田会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

7番目の事業「地域みんなで英語でおもてなし」について

○直田会長

提案団体からの事業概要について説明をお願いします。

→提案団体から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○坂井委員

- ・効果があったという実証はアンケートによるものか。何か客観的な数字はあるのか。

◇提案団体

- ・英語が上達したというよりも、外国人に話しかけられた際に、「逃げないで答えられるようになった」、「苦手意識がなくなった」という声を受講者から複数寄せられた。それこそが大きな成果と考えている。

○河中委員

- ・外国人は自分の国の歴史をよく知っている。歴史に関する授業を組み込む予定はあるか。
- ・正確な発音を身につけるにはリスニングが最も重要となる。外国人を講師として招く予定はあるか。

◇提案団体

- ・西宮の歴史など、身近なところから取り入れていきたい。
- ・予算等の関係もあり外国人講師を招くのは難しい。昨年に引き続き、海外留学の経験がある日本人を講師として招く予定である。

○横田委員

- ・外国人を地域でおもてなしするのも大事であるが、地域内での交流も重要なポイントとして、若い人を講師として招いたり、多世代の人たちを巻きこんだりすることを大切にされていたものと思われる。昨年の決算書によると、消耗品費や食糧費が予算を大幅に超えた数字になっており、資金繰りが大変だったと思うが、地域の色々な人を巻き込んで頑張っていたいただきたい。

○川東副会長

- ・教材費として受講者に多少は負担してもらってもいいのではないか。

◇提案団体

- ・昨年度は結果的に1人あたり500円をいただくことにした。今年の費用負担をどうするかについてはこれから検討したい。

○直田会長

- ・外国人にこちらから話しかけるというのはとても大事なこと。ある程度の身振り手振りで通じる場合もあるので、とりあえず声をかけてみようという雰囲気地域で醸成されることを期待する。

○直田会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。
- ・以上の7件でプレゼンテーションを終了する。

〈第2部 審査〉非公開